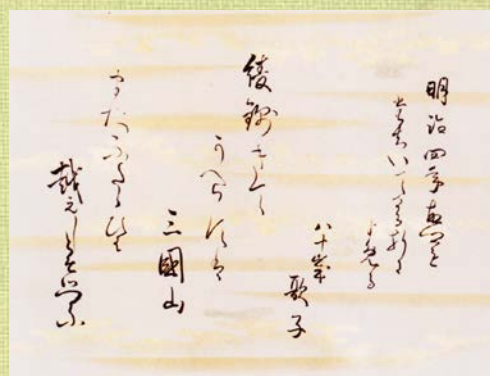
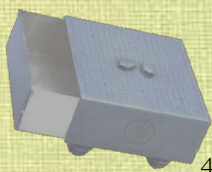


第16回 学祖・下田歌子展

皇室と 下田歌子



2016年4月4日（月）～6月3日（金）

休館日 土・日曜日、5/3～5/5休館

開館時間 11:00～17:00

観覧料 無料

会場 実践女子大学香雪記念資料館 企画展示室1・2

主催 実践女子大学香雪記念資料館

実践女子大学香雪記念資料館

東京都渋谷区東1-1-49 実践女子大学キャンパス内

電話：03-6450-6805 HP：<http://jissen.ac.jp/kosetsu/>

アクセス：渋谷駅◎JR山手線/東京メトロ（銀座線、半蔵門線、副都心線）/
東急（東横線、田園都市線）/京王井の頭線 東口（東急南口）から徒歩10分
◎JR埼京線 新南口から徒歩約10分
表参道駅◎東京メトロ（銀座線、半蔵門線、千代田線）B1出口から徒歩12分

※お越しの際は公共の交通機関をご利用ください。

（駐車場、駐輪場はございません）

1.「椅子にかけた全身肖像写真」（部分）実践女子大学図書館

2.「文庫形若松文ボンニエール」＊

3.「親子亀置物形ボンニエール」＊

4.「碁盤形ボンニエール」＊

5.下田歌子筆「色紙 綾錦着て…」実践女子大学図書館蔵

＊はすべて実践女子学園中学校・高等学校蔵

背景は下田歌子著『香雪叢書』表紙より一部加工して使用しています。

第16回 学祖・下田歌子展 皇室と下田歌子

学祖・下田歌子は、安政元年(一八五四)、美濃国恵那郡岩村藩(現在の岐阜県恵那市岩村町)の藩士であった平尾録蔵と妻・ふさの長女として生まれました。幼名を鉦(せき)といいます。幕末の動乱期、父・録蔵は安政五年(一八五八)と慶応四年(一八六八)の二度にわたって藩から謹慎を申し付けられており、厳しい生活のなかで育ちましたが、幼少期から和歌や俳句、漢詩などに秀で、優れた才能に恵まれていました。

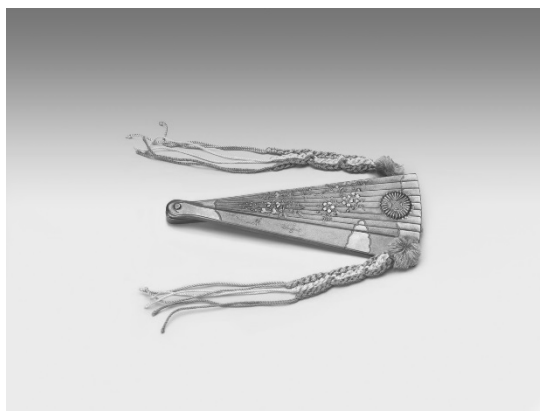
明治四年(一八七一)、明治政府より神祇官宣教使史生を命じられ上京していた父のあとを追って、下田歌子も上京します。和歌の師であった八田知紀や高崎正風らの推挙によって、明治五年(一八七二)に宮中に出仕すると、和歌の才を愛でられて皇后(後の昭憲皇太后)より「歌子」の名を賜り、以後、終生「歌子」と名乗ります。また、明治政府の頭官や権命婦であった税所敦子、大正天皇のご生母である柳原愛子らとも親しく付き合い、宮中を辞した後も交流は続きました。

明治二十六年(一八九三)、明治天皇の第六皇女・常宮昌子内親王(後の竹田宮妃)、第七皇女・周宮房子内親王(後の北白川宮妃)の御教育掛の内命を受けると、明治二十六年九月から明治二十八年八月までの二年間、欧米に女子教育視察に赴きます。その後、明治二十九年(一八九六)に正式に御教育掛を拝命した下田歌子は、高輪御殿にて皇女教育を行いました。両内親王はご結婚された後も、生涯、下田歌子を師と慕い、その交流は絶えることがありませんでした。

本展では、皇室と下田歌子と題して、皇室や宮中の人々と下田歌子との交流に焦点をあて、書簡や宮中から御下賜されたゆかりの品々を中心にご紹介いたします。



「昭憲皇太后御形見金蒔絵文台」
実践女子学園中学校・高等学校蔵



「檜扇形藤桜文ボンボニエール」
実践女子学園中学校・高等学校蔵

予告

1797年の江戸の交友 — 佐藤一斎と《名流清寄》の世界（仮）

学祖下田歌子と同じく美濃国岩村藩出身の著名な儒学者、佐藤一斎(1772-1859)に関連する資料、《名流清寄》を東京で初めて公開します。

平成28年10月10日～12月10日

開館時間:10:00～17:00

休館:日曜日

入場料:無料

会場:実践女子大学香雪記念資料館 企画展示室1・2

主催:実践女子大学香雪記念資料館